

第2章 現状と課題

(1) 現状

- ・本能学区は四条烏丸の西側に位置し、北は三条通、南は四条通、東は西洞院通、西は堀川通に囲まれています。
- ・学区のほぼ中央には、本能自治会館や堀川高校などの施設が立地しています。

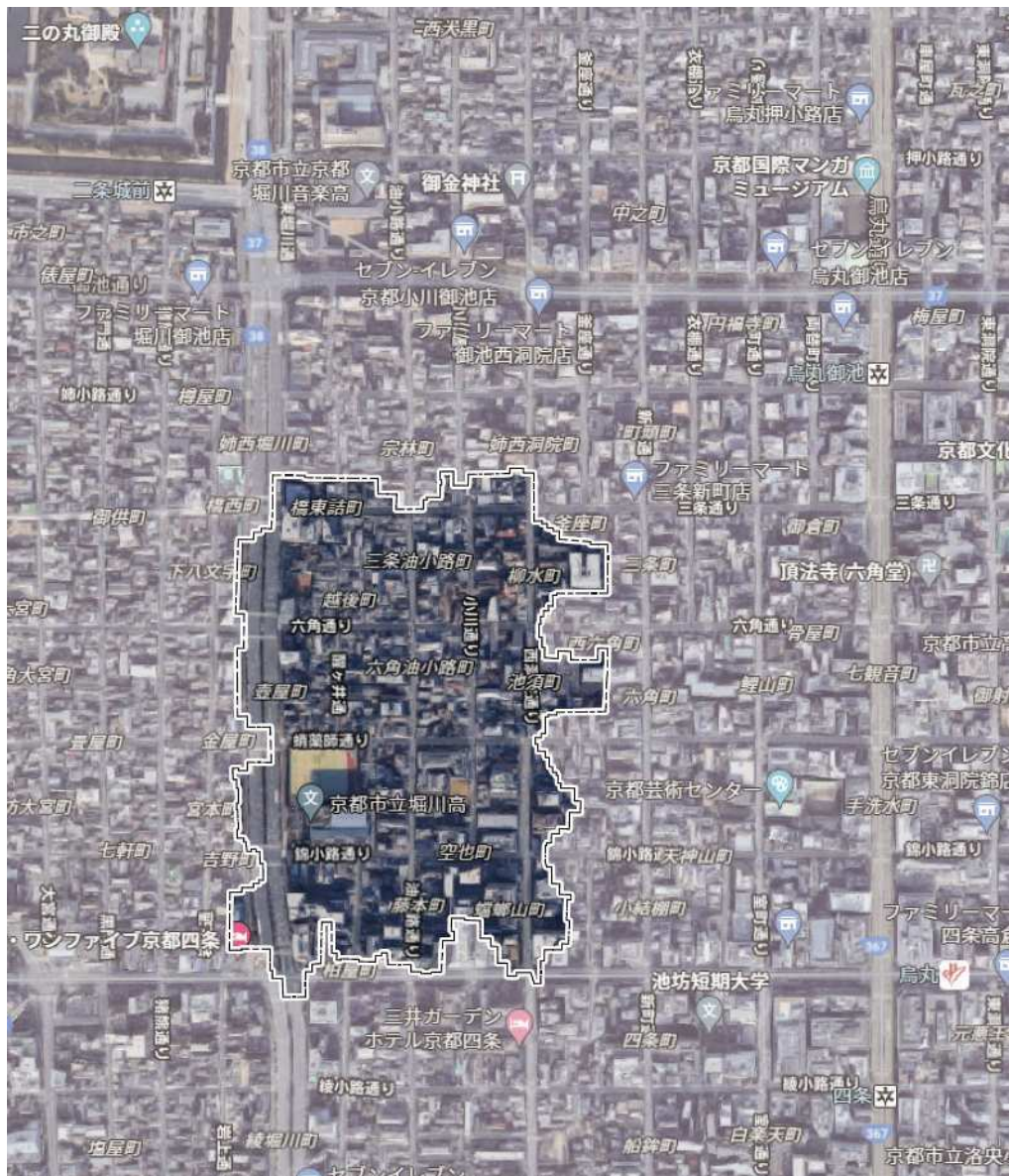


図 本能学区の位置・立地状況（画像©2022 google マップ）

- ・交通の利便性の良さや良好な学校環境等を背景として、呉服関係の職人の工房や店舗であった場所に、近年、マンション等が建つことが多くなり、人口が大きく増加し、まちが様変わりしつつあります。

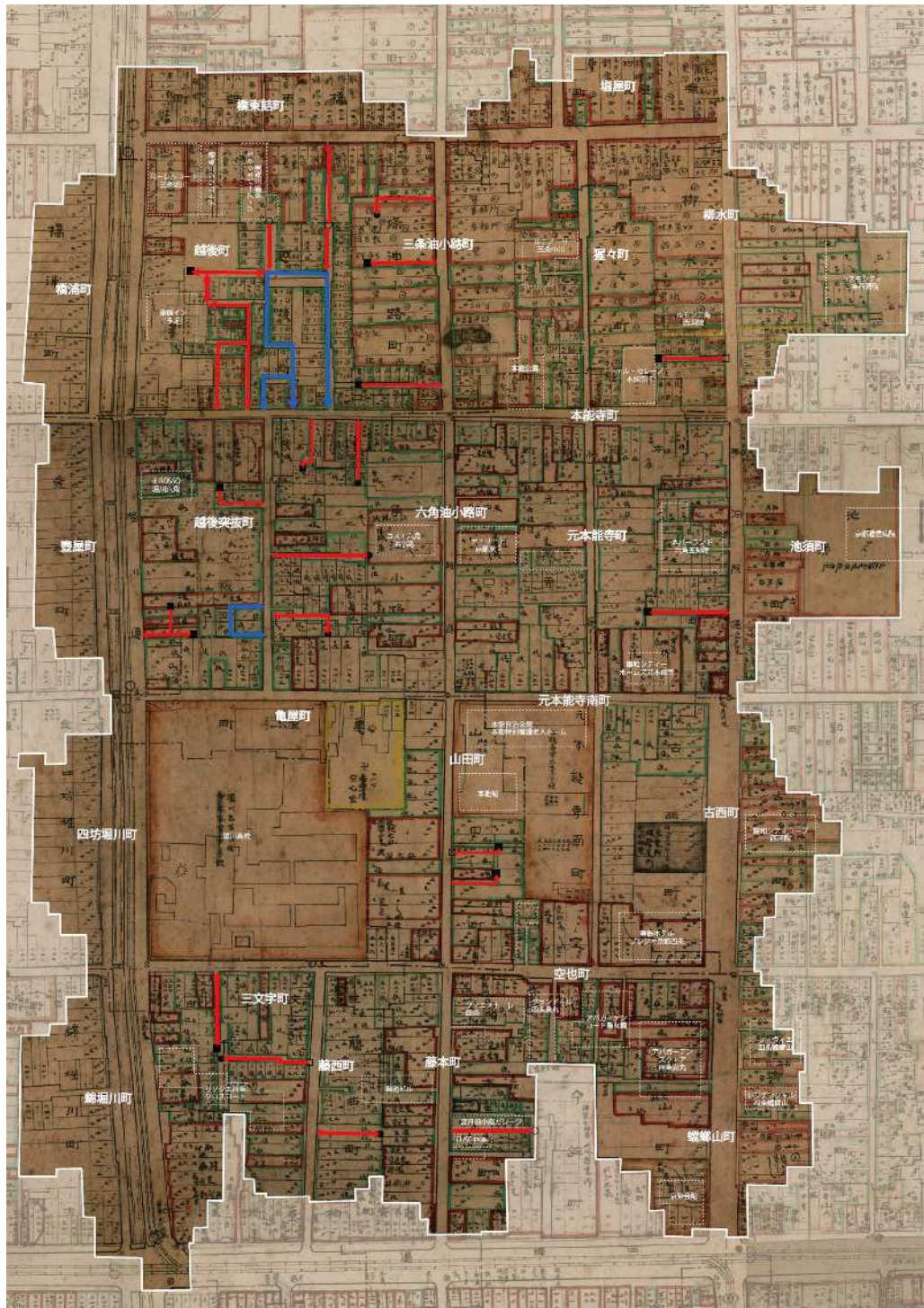


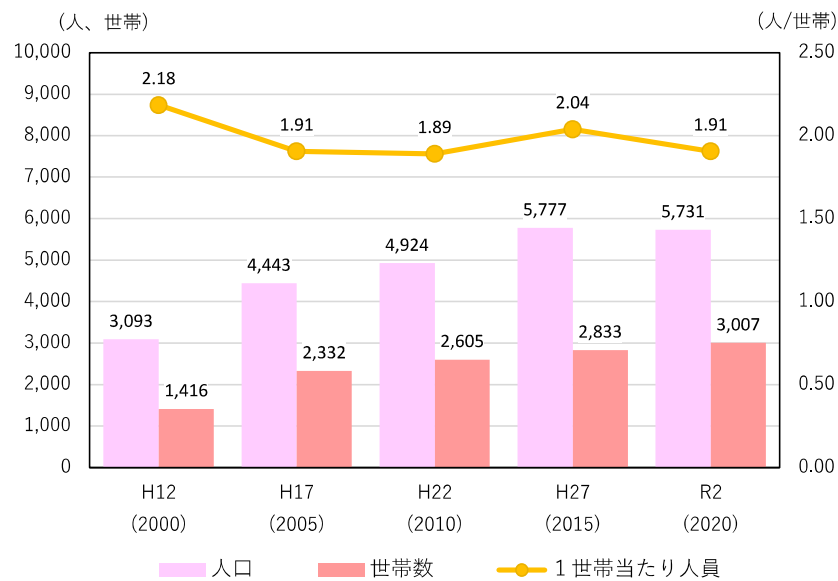
図 戦後の町並みとマンション等の立地状況

(出典：京都市明細図、所蔵：京都府立京都学・歴彩館)

(2) 人口等の現状

①人口・世帯数・1世帯当たり人員

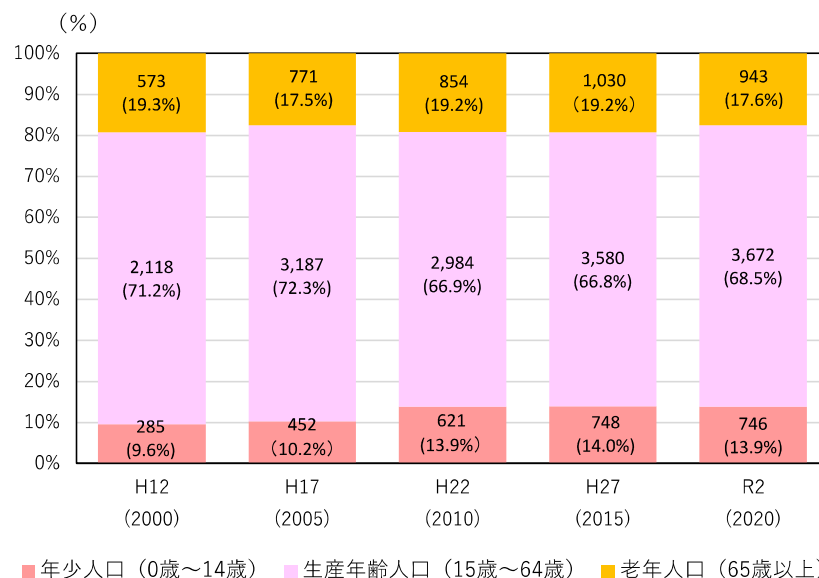
- ・人口は、令和2年で5,731人となっており、近年、増加傾向が続いていましたが、平成27年から微減しています。
- ・世帯数は、近年、増加傾向が続いており、令和2年で3,007世帯となっています。
- ・令和2年の1世帯当たり人員は1.91人となっており、平成27年から微減しています。



(出典：各年国勢調査)

②年齢階層別人口

- ・令和2年の年少人口は746人となっており、近年、増加傾向が続いていましたが、平成27年から微減しています。
- ・令和2年の高齢人口は943人となっており、近年、増加傾向が続いていましたが、平成27年より87人減少し、高齢化率も1.6ポイント減少しています。



(出典：各年国勢調査)

(3) 防災上の課題

①地震による被害

- ・花折断層地震が起こると、本能学区では、震度6強～震度7が予測されており、家屋の倒壊をはじめ、火災の発生、人的被害、ライフラインの機能停止など、大きな被害が想定されています。



【出典】京都市地震ハザードマップ（発行：平成31年4月）

②防災上の課題の整理

- ・現状や地震による被害想定、これまでの取組で頂いた住民のみなさんのご意見等を踏まえると、本能学区の防災上の課題は、以下のようにまとめることができました。

「コミュニティ」について

- ・マンションやホテルなどが増え、町内会のまとまりが弱まっているところが見られます。
- ・高齢者が増え、町内会や地域コミュニティに関わらない人も見られるようになっていきます。

【課題①】町内会のまとまりが弱まり、高齢者や地域と距離を置く人が増えると、災害時の安否確認や円滑な避難、救出救護活動への影響が心配されます。

「いえ」について

- ・「染め」のまちの雰囲気残り、風情ある町並みが見られ、古い木造住宅が見られます。
- ・空き家は比較的少ないですが、高齢化の進展により、今後、空き家が増加することが予測されます。
- ・四条通や堀川通の沿道を中心にマンションが多く立地しています。

【課題①】古い木造住宅などは、建物の倒壊により、自身の生命や財産だけでなく、安全な避難や緊急車両の進入に支障があるなどの危険性があります。

【課題②】エレベーターが停止したり、高層階で揺れが激しくなるなど、マンションにおいても災害に備える取組が必要です。

「みち」について

- ・学区の外周である四条通、堀川通などは広い幅員の幹線道路ですが、学区内を横断する六角通や錦小路通、縦貫する小川通などには、幅員の狭いところが多く見られます。
- ・学区の北西側、越後町や越後突抜町に路地が集中しています。通り抜けができる路地に比べて、袋路（通り抜けできない路地）が多くあります。

【課題①】幅員の狭い道では、災害時に建物が倒壊すると避難経路がふさがれ、安全な避難が出来なくなったり、緊急車両の円滑な通行が難しく、災害時の対応に遅れが生じる可能性があります。

「まち」について

- ・学区のほぼ中央に本能自治会館や堀川高校が立地し、学区の北側には本能公園が整備されています。
- ・市の中心部に位置し、飲食店や店舗をはじめ、ホテルなどの宿泊施設が多く立地しています。

【課題①】本能自治会館・本能館の避難所としての機能を充実することが望まれます。

【課題②】ホテル等との災害時の協力・連携体制づくりが期待されます。